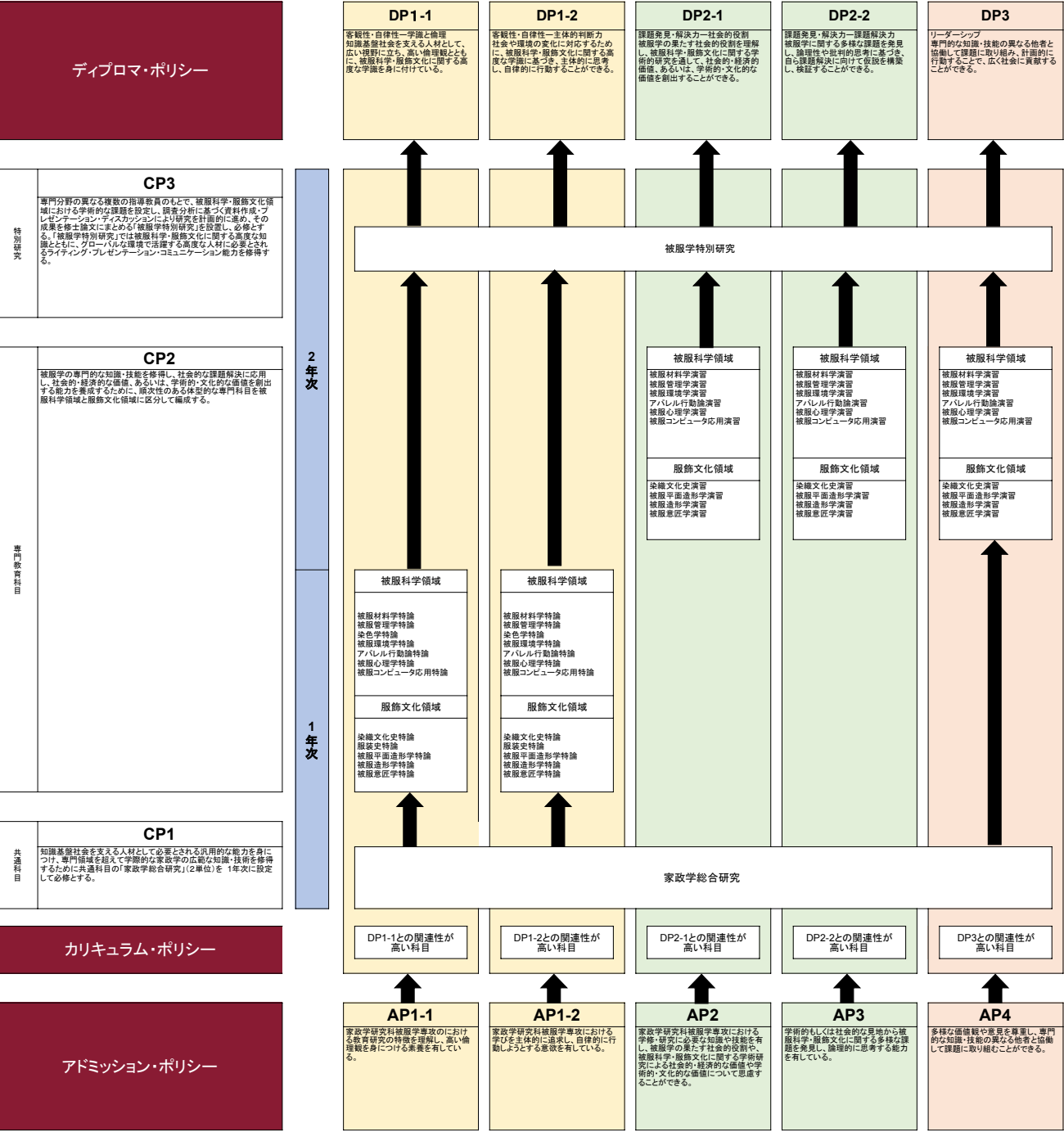




ディプロマ・ポリシー

CP3

専門分野の異なる複数の指導教員のもとで、被服科学・服飾文化領域における学術的な課題を設定し、調査分析に基づく資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションにより研究を計画的に進め、その成果を修士論文にまとめる「被服学特別研究」を設置し、必修とする。「被服学特別研究」では被服科学・服飾文化に関する高度な知識とともに、グローバルな環境で活躍する高度な人材に必要なとされるライティング・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を修得する。

CP2

被服学の専門的な知識・技能を修得し、社会的な課題解決に適用し、社会的・経済的な価値、あるいは、学術的・文化的な価値を創出する能力を養成するために、前次性のある体系的な専門科目を被服科学領域と服飾文化領域に区分して構成する。

CP1

知識基盤社会を支える人材として必要とされる汎用的な能力を身につけ、専門領域を超えて学際的な家政学の広範な知識・技術を修得するために共通科目の「家政学総合研究」(2単位)を1年次に設定して必修とする。

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

DP1-1

客観性・自律性一語論と倫理知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、被服科学・服飾文化に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。

DP1-2

客観性・自律性一語論と倫理知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、被服科学・服飾文化に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。

DP2-1

課題発見・解決力一語論と倫理知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、被服科学・服飾文化に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。

DP2-2

課題発見・解決力一語論と倫理知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、被服科学・服飾文化に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。

DP3

リーダーシップ一語論と倫理知識基盤社会を支える人材として、広い視野に立ち、高い倫理観とともに、被服科学・服飾文化に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。

被服学特別研究

被服科学領域

被服材料科学演習
被服管理科学演習
被服環境科学演習
アパレル行動論演習
被服心理学演習
被服コンピュータ応用演習

服飾文化領域

染織文化史演習
被服平面造形学演習
被服造形学演習
被服応用学演習

被服科学領域

被服材料科学演習
被服管理科学演習
被服環境科学演習
アパレル行動論演習
被服心理学演習
被服コンピュータ応用演習

服飾文化領域

染織文化史演習
被服平面造形学演習
被服造形学演習
被服応用学演習

被服科学領域

被服材料科学演習
被服管理科学演習
被服環境科学演習
アパレル行動論演習
被服心理学演習
被服コンピュータ応用演習

服飾文化領域

染織文化史演習
被服平面造形学演習
被服造形学演習
被服応用学演習

被服科学領域

被服材料科学特論
被服管理科学特論
染色学特論
被服環境科学特論
アパレル行動論特論
被服心理学特論
被服コンピュータ応用特論

服飾文化領域

染織文化史特論
服装史特論
被服平面造形学特論
被服造形学特論
被服応用学特論

被服科学領域

被服材料科学特論
被服管理科学特論
染色学特論
被服環境科学特論
アパレル行動論特論
被服心理学特論
被服コンピュータ応用特論

服飾文化領域

染織文化史特論
服装史特論
被服平面造形学特論
被服造形学特論
被服応用学特論

家政学総合研究

DP1-1との関連性が
高い科目

DP1-2との関連性が
高い科目

DP2-1との関連性が
高い科目

DP2-2との関連性が
高い科目

DP3との関連性が
高い科目

AP1-1

家政学研究科被服学専攻における学修・研究に必要な知識や技能を有し、被服学の果たす社会的役割や、被服科学・服飾文化に関する学術的・文化的な価値について思考することができる。

AP1-2

家政学研究科被服学専攻における学修・研究に必要な知識や技能を有し、被服学の果たす社会的役割や、被服科学・服飾文化に関する学術的・文化的な価値について思考することができる。

AP2

家政学研究科被服学専攻における学修・研究に必要な知識や技能を有し、被服学の果たす社会的役割や、被服科学・服飾文化に関する学術的・文化的な価値について思考することができる。

AP3

学術的もしくは社会的な見地から被服科学・服飾文化に関する多様な課題を発見し、論理的に思考する能力を有している。

AP4

多様な価値観や意見を尊重し、専門的な知識・技能の異なる他者と協働して課題に取り組むことができる。